

平成30年度第1回技術委員会（準備書第1回審議）及び追加提出の意見に対する都市計画決定権者等の見解

資料1-2

No.	区分	委員名	意見要旨	都市計画決定権者等の説明、見解等要旨
1	全般	梅崎委員	<p>【第1回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書のP4-4に気温と降水量が10年分まとめてあるが、降雨災害を検討する際には、年間降水量よりも時間降水量が重要となるため、時間降水量に係る資料を示してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・P4-4については、大気を予測するにあたり28年度の数字を主に使って計算しているが、過去10年と比較して、28年度の値が特異ではないことを示すために記載しています。 ・御指摘の意見は防災に関するものですので使い道が違うのではないかと思います。また防災の必要性に関してこの10年分の数字を使っていけばよいのではないかとするのは資料の作り込みについて御検討させてください。環境影響ということに関すると、資料に防災の話を含めるべきなのかどうか、検討させていただければと思います。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野県環境影響評価技術指針マニュアルにおいて「崩壊その他の自然災害を生じやすい地域」を把握することとなっているため時間降雨量時間降水量を追記します。（資料1-1）
31	動物	中村雅彦委員	<p>【第1回審議後追加意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライド89枚目の動物の「調査の手法」に「行動圏調査」を猛禽類調査として加えること。 ・行動圏調査から巣からの距離だけでなく、高利用域と工事場所との距離を判定し、保全措置の資料とすること。 ・事後調査においても「行動圏調査」を加えること。 	<p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・猛禽類の行動圏に関する調査として定点調査を行っており、通常の飛翔行動、その飛翔の内容、ディスプレイ、繁殖に関するもの、縄張りに関するもの等の情報を記録しています。は、定点調査を行っていますが、営巣地に関する結果以外は別冊に含まれていません。 ・現地調査により計画路線周辺で営巣が確認された種は、オオタカ、ハチクマ、ノスリの3種です。 ・営巣地と計画路線が離れていることから、計画路線区域及びその周辺に営巣中心が存在せず（飛翔が集中するような確認場所がなく）、繁殖の指標行動（巣材選び、餌選び、ディスプレイ、幼鳥等）も確認されていないことから、高利用域等の解析は必要ないと判断しました。（補足資料） ・事後調査の方法については準備書の表12.9.1-39（P12.9-135）の表中に記載のとおり、広義の意味で「直接確認による生息状況の確認」と記載しておりますが、事前調査と同様に定点観測を行う予定です。